

社 内 ニ ュ ー ス

TOPICS

フッ素樹脂および水処理薬品分野へ進出

Finding a new way in the field of fluororesin coating and water treatment chemicals

当社は、事業基盤の強化と業容の拡大を目指して、フッ素樹脂ライニングおよび水処理薬品の新規事業を開始した。

当社は1954年（昭和29年）8月に（株）神戸製鋼所から分離独立後、自社技術の開発とともに、欧米の優秀な技術も導入し、現在では、化学工業機器部門、環境装置部門および冷却塔部門を3本柱とした産業機械の専門メーカーとして、日常の生活からハイテク産業まで、技術を売りものに幅広い分野に貢献している。

昨今の円高をはじめとする構造不況下において各産業界では高付加価値の製品づくりに懸命の努力が払われているが、当社では、多様化するユーザのニーズならびにファイン化、ハイテク化を指向する高度なユーザのニーズに応えるため、首記二つの分野に進出することになった。

一つ目の新規事業であるフッ素樹脂分野は、当社の3本柱の一つである化学工業用機械部門の充実を狙いとしている。当社は、これまで、グラスライニング、ステンレス鋼製等各種耐食性機器の専門メーカーとして、化学工業界において数多くの実績を有し、ユーザから厚い信頼を得ているが、従来のメニューに「高機能樹脂」といわれるフッ素樹脂を新規に加え、より選択の幅を広げて、あらゆるニーズに応える総合耐食性機器メーカーを目指す。

フッ素樹脂は、プラスチックのダイヤモンドともいわれ、耐化学薬品性、耐熱耐寒性、電気特性、非粘着性など合成樹脂の中でも最もユニークな特性を誇る材料として、各工業用はもちろん、一般家庭から宇宙開発までその用途はますます拡大するものと考えられている。

当社は新規事業としては、当面フッ素樹脂による「コーティング」、「シートライニング」の塔、槽、配管部品などの製造を主力に手がけ、化学工業、医薬品工業を中心に半導体関連、食品、繊維、製紙その他一般機械工業など幅広い分野への販売を目指し、3年後には10億円の売上を計画している。

二つ目の新規事業は、当社の環境装置部門および冷却塔部門の業容拡大とより一層のサービスの向上を目指し、水処理薬品の供給を開始するものである。当社は、水処理事業を1959年（昭和34年）、冷却塔事業を1962年（昭和37年）にそれぞれ開始し、工場の用水、廃水処理、上水・下水処理および工業用冷却塔分野において多数の機器・装置の納入実績を有している。これら産業廃水・下水等の処理プロセスで凝集沈殿などの固液分離および汚泥の脱水操作を行う場合、また冷却水による腐食、スライム、スケールの防止を目的として各種の水処理薬品が使われており、設備が稼働しているかぎり継続使用されるので、水処理には薬品は不可欠となっている。

当社は、上・下水・廃水処理装置および冷却塔の総合メーカーとして長年にわたって蓄積した技術と経験を活用し、今般、機器・装置製作の他に、納入後のアフターサービスの一環として水処理薬品の供給を営業品目に加え、水処理事業のトータルサービスを提供しようとするもので、3年後には、水処理薬品の売上を20億円に持っていく計画をしている。

なお、当社はこれらの新規事業を開始するにあたり、8月1日付にて当社100%出資の新会社を設立し、フッ素樹脂は神鋼ファウドラ・テクノレジン(株)、また水処理薬品は神鋼ファウドラ・ケミカル(株)において製造、販売を担当することにしており、11月から本格的な営業を開始した。

神鋼ファウドラ・テクノレジン株式会社

本 社 神鋼ファウドラ株式会社内

代表取締役 伊 藤 益 三

資本金 1,000万円

電話番号 (078)232-8185

神鋼ファウドラ・ケミカル株式会社

本 社 神鋼ファウドラ株式会社内

代表取締役 下 村 幸 雄

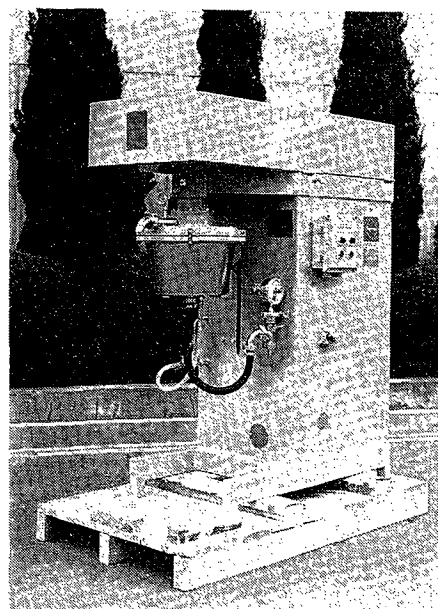
資本金 1,000万円

電話番号 (078)232-8190

超微粉砕・分散機を国産

Domestic production of CoBall-Mill starts

当社は、スイスのフリーマ社と提携し、超微粉砕・分散機「コボール・ミル」(商品名)の国産化に乗り出すことを明らかにした。当社は、1984年3月にフリーマ社の日本



コボール・ミル

代理店であるリッカーマン(日本)社と同製品の販売契約の結び、販売活動を展開してきたが、粉碎・分散性能が非常に優れている上、ハンドリング機能などがユーザーズにマッチ、またテスト機によるプレサービスの結果が高く評価されて順調に販売量を伸ばしたため、国産化に切り替えたもの。

「コボル・ミル」は、断面が逆三角形の独特の粉碎ゾーンを持った、新しいタイプのアニュラー型(環状)連続式かく拌ミルで、性能は非常に高い。

まず、粉碎室のエネルギー密度が非常に高く、サスペンションに強い剪断作用を与えるため、微粉碎、高分散が能よく行える。また独自の粉碎室構造により、ショートバク現象がなく、製品の粒度分布がシャープになる。さらに、粉碎室容積に対する冷却面積の比が非常に大きいため、すぐれた冷却効果がある。構造が簡単、メンテナンスも容易などメリットは多く、微粉碎のみならず、微粉原料の分散が磁気塗料や高級塗料の分野で注目されて、この2年間で約30台の実績を得ている。

この間、当社は製造や販売体制を整えるとともに、コストダウン、短納期化やアフターサービスを強化し、国産化への準備を進めてきた。

当社では、磁気塗料、感熱紙原料などの情報関連、ペイント、インキ、化学品など幅広い分野で、従来タイプのサンドミルやロールミルなどと、コストおよび納期(2分の1に短縮)の面で十分対抗できるものと判断、今後年間20-30台、3-5億円の売り上げを予定している。

同製品は'86粉体工業展に展示されている。

(化学工業日報 '86.9.13)

中国・黒龍江省大慶に総合廃水処理設備完成

Construction of the wastewater treatment facility has completed at Daqin, Heilongjiang-province, China

当社は中国・黒龍江省大慶に建設された大型エチレンコンビナートに付帯する総合廃水処理設備を今年8月に完成した。

中国・黒龍江省大慶のエチレンコンビナートは、年間30万トンの生産能力を備えた大型エチレンコンビナート。これは中国第6次5カ年計画、同第7次5カ年計画の重点プロジェクトとなっており、中国、日本ばかりでなく欧米

などの有力企業からも技術導入、提携により完成された。

当社も1978年、このコンビナートに付帯する総合廃水処理建設のうち機械・電機設備一式を約15億円で受注。正式契約締結後、装置の船積みまでは順調に進展した。

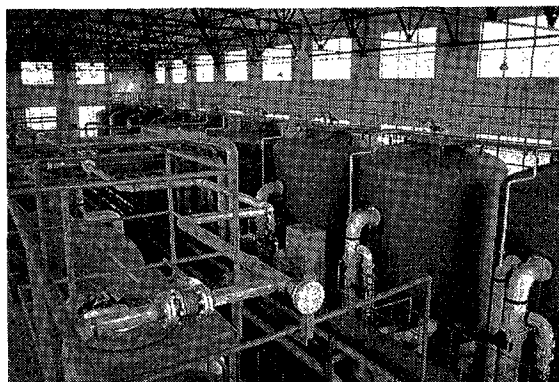
ところが1980年以降、中国国内の経済調整のため据え付け工事が大幅に遅滞。1984年春になってようやく、本格的に据え付け工事が始まり、今年7月末に試運転終了後正式に引き渡しを行った。

この廃水処理設備は、「シグマウェーブエアレーター」を主軸にした活性汚泥処理設備や砂汚過装置、活性炭吸着装置など3次処理システムまで装備。さらにベルトプレス脱水機や立型汚泥焼却炉、活性炭再生炉なども併設した「完全公害防止型」の高度システムで1日2万4000立方メートルの処理能力と世界最大規模になっている。

これは中国も産業・経済の振興・発展と同時に、先進国で大きな問題となった公害の発生に着目。

とくにエチレンコンビナートなどは、周辺地域環境汚染に万全の対策を施すことが必要で、当社の高度化された総合廃水処理技術が必要だったものという。その水処理技術を中国側が高く評価。当社はこれを大きな弾みにし、環境装置や化工機など全事業部が一丸となって中国の大型プロジェクトに対するマーケットリサーチを展開し、いわば「点から面」を目指した経営戦略の転換を行う。

(日本工業新聞 '86.9.16)



当社が中国で完成した総合廃水処理設備
Wastewater treatment facility of Daqin, China